

【特集】海軍舞鶴鎮守府開庁120年



引揚記念館内で同級生の語り部の説明を受ける生徒たち

# 舞鶴の歴史を未来へ 語り継ぐ若者たち

次世代から次世代へ

増える学生語り部

軍港として整備された港は戦後、引揚港として13年間にわたり引揚者約66万人を受け入れた。

引揚記念館ではこうした引き揚げやシベリア抑留の史実を後世に継承し、平和の尊さを広く発信している。館内ではスタッフに加え、語り部活動をすすめるNPO法人舞鶴・引揚語りの会や中学生から大学生までの学生語り部が活躍。今年行われた引揚語り部養成講座の閉講式では中学生・高校生11人を含む24人が講座を修了。語り部の数は76人に増えている。

学生語り部は25人となり「自分の言葉で同世代に引き揚げの史実を伝えたい」と語り部活動に取り組み。7月29日に福知山高校附属中学校と交流するなど同世代との交流が盛んで、今後も次世代から次世代への史実の継承が期待されている。



NPO法人舞鶴・引揚語りの会  
濱朗夫さん

市が公募した語り部の1期目から活動していて、今年で17年ほどになります。引き揚げの歴史は本などを読んで知っていましたが、人に伝えたいと思いました。どう話したらいいかわからなかったため、語り部養成講座を受けました。

近年、若い語り部も増え、話すことを覚えてからも個人で勉強して自分の言葉で引き揚げの史実を話してくれます。これからも、史実を風化させずに語り継ぐためにも若い世代の力は大切です。記念館を見るだけでなく、語り部が解説することで皆さんの情報を得ることができ、印象にも残りやすいのではないかと思います。また、話すとき来館者の反応があり、自分も勉強になることが多いです。いろいろな人と話ができるので活動は自分にとっても楽しみです。できる限り続けていきたいと思っています。

## 120年の歴史を伝え、 世界とつながる平和な港へ

未来へつながる物語

120年前に海軍舞鶴鎮守府が開庁し、このまちの湊は、この国の港になった。そして、明治、大正、昭和という忘れてはならない激動の時代があった。

第二次世界大戦終結後、かつての軍港は引揚港として、海外から多くの引揚者を迎え入れる。

その後、海上自衛隊の基地が置かれ、

世界各国との貿易も活発に行われるなど、平和な港をまちぐるみで築いてきた。120年経った今では、クルーズ船が多く寄港し、旅客ターミナル「京都舞鶴港うみとびら」が設置されるなど、かつての軍港が平和への願いとともに「世界につながる港」へ成長しようとしている。

舞鶴の歴史は次世代へ引き継がれ、未来へと続いていく。



語り部をやっているの舞鶴の歴史を知れて魅力を感じることもいっぱいある。ぜひ知ってほしい！

マイルいいね♪

帰って調べたり、みんなと話してみよう！

語り部やったんや！

そうなんよ

引き揚げがね！  
東郷カレンスラック  
お菓子の老舗が多い  
れんかに愛着  
郷土資料館  
行くのがかた

あれ、舞鶴  
魅力あるんじゃ...



▲引揚船を湾口まで出迎える(上)  
歓迎アーチ付近をうめる出迎えの人たち(下)



▲クルーズ船を歓迎する市内の園児